

平成 27 年度 第 1 回静岡市生涯学習推進審議会会議録

1. 日時 平成 27 年 5 月 29 日（金）14 時から 16 時まで
2. 会場 葵生涯学習センター 3 階 第 35 集会室
3. 出席者
【委員】（14 名）
猿田会長、弓削副会長、柴委員、磯山委員、洪江委員、松下委員、岡村委員、愛野委員、中野委員、青島委員、菊川委員、小塩委員、鈴木委員、森委員
【事務局】
海野市民局長、大川課長、川口課長補佐、島田係長、井上主査、藤本主任主事、大瀧主事
4. 欠席者 林委員
5. 傍聴者 1 名
6. 議事
第 1 号 静岡市の生涯学習推進体制及び生涯学習の取り組みについて
第 2 号 第 2 次静岡市生涯学習推進大綱について
第 3 号 今後のスケジュール及び進捗管理について
7. 会議内容 下記のとおり

猿田会長（議長）

議事第 1 号「静岡市の生涯学習推進体制及び生涯学習の取り組みについて」、第 2 号「第 2 次静岡市生涯学習推進大綱について」、第 3 号「今後のスケジュール及び進捗管理について」、事務局より説明をお願いします。

事務局

< 議事第 1 ～ 第 3 号について説明 >

猿田会長

ただいま事務局より、議事 1 号から第 3 号までご説明いただきました。この件につきまして、何かご意見やご質問はございますか。また、今回は初回ということもございまして、日頃お感じになっているご意見等も含めて、ご発言がありましたらお願いいたします。ご発言がある方は挙手をしていただきましたら、マイクをお渡しいたします。

森委員

質問が 2 点ございます。静岡に生まれて不思議に思っていることですが、生涯学習センターと清水区の生涯学習交流館について、線が引かれて切り離されているように感じております。講座を受講した際でも、センターと交流館のやり方が違っていたり、文書を配布することについても、センターの中は文書便でよくても交流館へはいかなかつたり…。広報を見て講座を選ぶ際にも、センターと交流館が扱うテーマは何か違うという感じがしています。

第 1 号のご説明を聞きまして、ターゲットが違うというか、地域を包括している範囲が

違うという印象を受けました。市の合併の経緯があるのかなとも思いますが、その辺りの違いのご説明と、今後ずっとこの体制でいくのかということについて、ご説明をお願いします。

事務局（課長）

今、森委員がおっしゃったように、この違いにつきましては、合併前の静岡市、清水市が生涯学習施設を設置した際の、経緯の違いからきております。

旧静岡市の方は、どちらかという広いエリアの方々に各拠点の生涯学習センターをご利用いただくという形で、みなさまの生涯学習活動を支援するという設置目的がございます。

旧清水市の方は、中学校区に一つずつ交流館があり、こちらは地域コミュニティの支援をするために設置した施設です。例えば、自治会や子供会、婦人会といった地域のコミュニティ、それらの活動をおこなう地域の方々を育てるという目的で施設を設置しております。

名称も、旧静岡市の施設がセンター、旧清水市の施設が交流館となっておりますが、もともと設置した目的が異なるために、その使い勝手も少し違っているのが現状でございます。

猿田会長

いかがでしょうか。さらにご意見がございましたら、続けてご発言をお願いします。

森委員

市民の立場としては、旧静岡側に住んでいればセンターへ、清水区に住んでいれば交流館へ、と決められてしまっているように思います。駿河区にも、小さな規模の施設があってもいいのではないかと、とも思いますが、それは無理なのでしょうか。

事務局（課長）

市としては、この状況をそのままにしておこうとしているわけではありません。施設の全体的な見直しについて、アセットマネジメントという考え方をもって取り組んでいるところであります。これについては、課単独の考え方だけではなく市全体の考え方で取り組んでおり、生涯学習施設だけではなく、小学校等の市の施設について、今後どうやって整備・維持管理していこうかといった視点で見直しをおこなっています。

旧静岡側は広い地域、清水区は各学校区の施設配置になってはいますが、決して葵区駿河区の方が清水区交流館を使えないわけではありませんし、清水区の方がセンターを使えないこともありません。交通的に距離は離れておりますが、旧静岡側は駐車場の台数がある程度多くあります。清水区側については、地域の学区内で歩いていける環境にあり駐車場がせまい状況ではありますが、最近建設された岡生涯学習交流館には、これまで駐車場がなかったところを、建て替えの際に14台のスペースをとっておりますし、建て直しのあった有度や袖師交流館についても、なるべく広く駐車場をとる形で、少しでも利用者の使い勝手がいいように整備をしてきており、決して他の地域の方に使っただけないということではありません。

例えば、由比生涯学習交流館は音楽ホールを持っているという特徴がありますが、この館は旧由比町の方だけではなく、市全域から利用者が来ております。ご不便をおかけすることがあるかもしれませんが、市内各施設の特徴をみていただきまして、利用の趣旨に合った施設をご利用いただければと思います。

猿田会長

ありがとうございます。この場で納得できる回答を引き出すのが当審議会の本来の目的ではありませんので、このようなやりとりがあったということを議事録に残していくことが大切かと思えます。第2次生涯学習推進大綱の中では、その辺りまで踏み込んで8年でやろうということにはなっていないようですが、市でもそのまま放置していくつもりではないというお話がありましたので、今後ご検討いただく案件になろうかと思えます。それは、今回の推進期間の8年よりも後の展望になるのかもしれませんが、そのために審議会で常に話題にしていくことも大事かと思えます。貴重なご意見ありがとうございました。

小塩委員

先ほどの議論に関連するかと思えますが、今、生涯学習センターでは指定管理者制度を導入されていて、これから交流館にも指定管理を導入するというようになってくるかと思えます。市の管理ではなく民間会社の管理になることで、センターと交流館との目的や方針が違っていると、それに従って運営の方向性がわかれていくのではないのでしょうか。

また、指定管理者になった場合には、市から離れるという形になりますので、行政とのつながりやコミュニケーションがうすくなっていくのではないかと思えます。

今、図書館も指定管理者制度の導入を検討しようと記事などに出ているように、図書館は図書館で、例えば東京のようにツタヤが入るなどして、これまでとは違った感じの図書館になろうとしています。そうなってくると、図書館と生涯学習施設のコラボレーションがうまくできるのだろうか心配しております。

事務局（課長）

先ほどお話しさせていただいたように、葵区駿河区については、静岡市も出資している文化振興財団が指定管理者になっており、清水区については、地域コミュニティという形で定義もあることから、自治会が主になって指定管理をおこなっています。

事業内容が違ってしまわないかというご心配がありましたが、それにつきましては、市として仕様書を作成し、このような事業をやってくださいという指示をしております。添付資料を見ていただいてもわかりますが、施設の規模により、センター側と清水側と回数は異なっても、同じような内容の講座をやっていただいております。

つながりについてですが、今ちょうど隣の会議室でセンター長会議をおこなっています。清水区では毎月館長会議があり、会議には私たちも出席しておりますし、常時打合せもしています。またこの間も、センターと運営協議会職員に、大学との連携会議へ出席してもらっています。なぜ出席してもらっているかという点、両方の地域で、大学の高度な知識を使った講座を開いていただきたいためです。

このように、つながりを持つ機会がありますし、地域ごとに違う事業内容ではないという点をご理解いただきたいと思います。

小塩委員

図書館とのコラボレーションというアプローチはどうなりますか。

事務局（課長）

図書館は広い意味では生涯学習施設ですが、所管は教育委員会になっております。教育委員会も生涯学習推進大綱策定に参加しておりますし、その中で、読み聞かせや子ども対象の事業をやってもらっていますので、決してつながりがないということではございません。

図書館の指定管理の内容については、図書館協議会にて審議されていく内容であると思えます。

猿田会長

それでは、手をあげていただいた鈴木委員お願いします。

鈴木委員

私の家族のことですけれども、いい大学、大学院に入り博士号もとりましたが、年を取っていくにつれて学校で勉強したことが一切役に立たないと言っておりました。お前はこれから何をするのかと聞くと、仕方がないので一応管理職になると言い、結局はがんで死んでしまったのですが、要するに、市で考えている生涯学習と、私の考えている生涯学習がどうも違うように感じています。

これは意見ですので回答はいいません。つまり、いい大学に入るなどしてねじを一生懸命巻いても、ある時間が来るとねじが切れます。勉強についていけないとか、50代60代の方であればコンピューターが使えないとか、そのようなことが起きてきます。

フランスなどでは、大学を出ても役に立たないだろうからと、その後もずっと勉強していくシステムがあります。しかし静岡市では、行事をたくさん作り、人がたくさん集まればいい、たくさん人が集まるようにみなさんが頑張ればそれでいいのかなと受け取りました。それも生涯学習とつながることであるとは思いますが。民生委員を長いことやっておりましたが、朝からお酒を飲んでいる方もいましたので。65歳くらいの若い人達にも何かに参加させてあげたい、そういうことが生涯学習ではないのかな、いい大学を出てもねじは切れてしまう。ずっと続けられる勉強をさせなければいけないのではないかと、それが一つの大きなテーマだと思います。

それからもう一つ、静岡市の生涯教育はどういう方向で行くのか、私たちはどういう方向で協力していけばいいのでしょうか。行事になるべくたくさん人を集めることが生涯教育の達成ということであるのなら、それはそれで協力をしていきます。ただ、まだそこがよくわからないものですから、会長が大学の先生でもいらっしゃいますので、教えていただきたいと思えます。

猿田会長

ありがとうございます。

生涯学習は、多様性があるものだと思います。ある種の自己研鑽という形で、毎日何か

取り組むものを持ちながら個人的に努力していくところに生きがいを感じられたり、それによって活き活きした生活のリズムが作られたり…。それを、向上しながら世の中に生かせればそれも良いですし、あるいは、自分のためにやっていくということも素晴らしい生き方です。ですから、「こういう生涯学習でないといけない」とか、「こういう生涯学習を静岡市民は目指しましょう」ということでは、少し息苦しくなるのではないかと思います。

静岡市が世界に輝くまちをつくりあげたいという時に、市民の学習のエネルギーが自己完結してしまっていると、せっかくほかにも生かせるものがしっかりとあるのに、みんなはあまり知らないし、生かすような仕組みもないということではもったいないことです。何とか市民の力を高めていくということと、高まった力をつなぎ合わせてまちづくりに生かしていくことが大切だと思います。

学習の局面と活用の局面の循環を作っていこうというのが、答申や大綱の図式です。

だから、個人的なものでも、みんなで公共的なものや社会的なものにしていこうということでもありますし、学習がそのように広がっていくと、それをみんなでどのように生かしていくか、その次の活用の段階になっていき、まちの活気につながったり、様々な文化的資源を磨き上げていくことにもなります。

そういうところに学習のエネルギーが使われていけば、人口減少の時代の中で、三次総が目標としている人口70万人維持といったところにも生かされていくのだと思います。そうすれば、我々市民も静岡に誇りや愛着を持って、もっといいまちになっていくのではないのでしょうか。

ですので、どういう生涯学習がいいかということについてのお答えにはならないのですが、その辺りはかなりオープンなものであって、この場でこういう生涯学習に限定した議論をしましょうということではないのかと思います。

おっしゃりたいことと、私が伝えたいことと違うかもしれませんが、また機会がありましたら、また詳しく教えていただければと思います。

愛野委員

審議会委員になり、大綱等を読ませていただきました。

私自身、自分を高めるためには学ぶということが大切だなと思っておりましたところ、外山滋比古先生の「50代から始める知的生活術～人生二毛作の生き方～」という本の中に、定年や子育ての終わった段階で新しい自分を創造していくためにはどうすればよいかということが書いてありました。そこには、今お話のあったように、知識ばかり詰め込んだ人はダメになってしまうとはっきり書いてあります。

私は、自分を高めることが大切だという認識で仲間を広げ、楽しい生活がみんなであれば、それが地域づくりにつながるのではないかと考えています。今回大綱を見て、「地域づくり」ということを初めて知りました。そんなことをいわなくても、ある程度のハードさえあれば、みんなで一生懸命やっていくことで力についてはいけないかなと感じておりました。

松下委員

指定管理者制度のお話について、平成21年度に生涯学習センター、清水区生涯学習交流館には24年度から導入したということですが、文化振興財団が指定管理者として選定され

た際には、公募制度で募集をしたのでしょうか。

事務局

はい。公募制度です。

松下委員

清水区の生涯学習交流館についても公募でしょうか。

事務局

こちらについては限定して募集をかけております。

松下委員

その理由は、先ほどお話のありました歴史的なもの、地域性からということでしょうか

事務局

はい。

猿田会長

ありがとうございます。その他ご発言いただいている方、いかがでしょうか。

青島委員

私は、平成 21 年から駿河生涯学習センター、来・て・こでお世話になっております。昨年は 12 月に開催され、毎年おこなわれている来・て・こ祭では、小鹿商店街のみなさんが参加されたり、畑やたんぼを持っている小鹿の地域のみなさんから野菜などを提供していただいたり、あるいは静岡大学や県立大学の学生さんたちもボランティアで折り紙を教えてくださいたりしています。ちなみに、私も回し将棋などを子どもたちとやっています。

そういったことは、非常にいいことだと思っております。以前は夏にも一回開催されていましたが、今は冬だけの開催です。このような行事を、年に 2 回でも 3 回でもやっていたら、もっと地域が活性化されるかと思えます。来・て・こだけではなく、ほかのところでもやっていたらありがたいと思っております。

菊川委員

私は大学で普通に勉強していましたが、卒業後は勉強が終わってしまった感じがしました。その後会社に入ったのですが、大学で学んだことがすぐに使えるわけではありませんでした。そのうちに英語を習得する必要が出てきましたが、その時に、民間の高い英会話教室ではなく、生涯学習交流館の講座が英語学習のきっかけとなりました。

交流館では、英語の導入部までの講座でしたので、残念ながら深いところまで学ぶことはできませんでしたが、講座を通じて出会った友達と勉強会を開き、CNNを読み合ったり、読書会を開いたりし、資格試験を受けたりもしました。その後は塾で教えることになるなど、色々ときっかけやつながりを作っていたことで感謝しております。

生涯学習といっても、年代によってニーズが違うと思います。

若者でしたら会社に役に立つことだったり、シニアの方や退職された後の方であれば仲間との交流を深めたり、趣味の延長で楽しむといったようなニーズ、子どもは地域の年配の方から昔の遊びを教えてもらうなど、それぞれのニーズは異なるものです。勉強とはまた違ったものかもしれないけれど、それが生涯学習といえるものだと思いますし、利用の仕方によってもまた違うかと思います。

猿田会長

岡村先生、生涯学習について、学校のお立場からはいかがでしょう。

岡村委員

小学校の場合、キャリア教育を推進しようとして動いております。中学生になると職場体験をして自分の将来を見据えるといった機会がありますが、小学校では社会科の勉強の一環になっており、大川地区については、地域の人との関わりや老人との関わり、地域の企業との関わりを持つことで、地域学習を進めております。

少し話がずれますが、大川地区にも生涯学習施設があります。先ほど森委員から出たお話はよくわかりますけれども、大川の生涯学習交流館は地域の拠点としての意味合いを持っています。生涯学習のための部屋もありますが、住民票を取ることもできますし、その横にはデイサービスの施設も併設しておりますので、地域の拠点の場として重要な役割があると思います。大川地区の人々が薫科生涯学習センターに行くとなると、広域だという感じがあります。

きっと森委員は、地域密着した部分としての役割も考えていらっしゃるのではないかなと思いました。大川の地区に生活する子どもたちが、交流館にハワイの踊りを見に行ったり、逆にそこで歌を披露したり、そのようにみなさんが施設を生き活きと使っているのを見ると、いい交流ができていないかと思います。

猿田会長

この話を受けて、中野委員、学校応援団コーディネーターとしていかがでしょう。

中野委員

私も、先ほど鈴木委員がおっしゃったように、高齢者や一人暮らしの方といった人を参加させたいと本当に思います。

学校に地域の方が入ってくると学校は変わりますし、子どもにとってもいいですし、地域の方も喜びや生きがいを感じてくれるものです。

自分から行けるとい方は心配しなくてもいいですが、むしろ自分からはなかなか行けずに、一人暮らしでさみしい思いをしているけれども、本当はすごい力を持っている方を、コーディネーターや地域の中心になっている方がその力を引き出して、連れていってくれるといいと思います。つながっているという思いが、活気あるまちづくりになるのだと思います。自分が役立っているとか、知り合いができたとか、そのような思いをたくさんでることで、生涯学習が広がり、もっと生かされていくことになるのかなと思います。

どこの地域にもある学校がその役目を果たせればいいなと思いますが、学校だけではとてもやりきれませんので、生涯学習施設や地域独自のお祭りなどで、それぞれが学んで持

っているものを生かせるチャンスを作っていけばいいかなと思っています。

猿田会長

ありがとうございます。それでは、渋谷先生から順番に、時間の範囲内で恐縮ですが、一言お願いします。

渋谷委員

生涯学習は自己実現のためにおこなうものだと思っていましたが、それに加えて、自己実現から始まったことが、人とつながりながらやることで、他者実現へつながっていくということを、一つ対象視点として考えなければいけないことなのかなということを感じながら、みなさんのお話を聞いておりました。

磯山委員

私は昨年まで、生涯学習推進大綱策定に関わってきましたが、みなさんのお話の中で、様々な学びのイメージがあるのだということ、今回も改めて実感しております。

「生涯学習」といってしまうと、何だかとても難しく敷居が高いものになるのですが、普段やっていることを改めて振り返ってみれば、学んでいるという、実に素朴で自分の好奇心自体を大事にしていくということが、大切なのかなと思います。

もう一つ、先ほど渋谷先生もおっしゃっていたのですけれども、学びが閉じられてしまうと、自分だけの閉じられた世界の中で回ってしまうのかなと思います。学びがみんなにとってよりよいものになるように、学んだことを活用できるような人になっていくことが大事だと考えています。

柴委員

まず、先ほど「生涯学習って何だろう」というご指摘がありましたが、やはりそれは教育とは違うかなという気がしております。大綱にも、「暮らしの中で主体的に…」ということがうたわれております。主体性のある人はいいのですが、主体性がなくてモジモジしている人を、どのように引っ張り出してくるかということが、一つの課題であろうかと思えます。

それからもう一つは指定管理という問題です。おそらくこれは全国的な行政のあり方として、税金がない中でコスト削減をしながら、どのようにやっていくのかということですが、それをきれいな言葉にすると、市民との協働という格好になると思えます。主体的に動いてもらい行政と一緒にやっていくこと、その中身をどのようにやっていくのかということは、コストの問題だけではなく、非常に大事になってくると思います。

先ほど、イベントをたくさん打てばよいのかというお話がありましたように、私も静岡で学生と色々やらせていただく中で、「活性化＝イベントに何人来たか」ということがすごく注目されているように感じていますが、そうではないのではないかと常々思っているところです。

ですので、そうではないものをどのように深めていくのか、市民協働のあり方というものを模索していくことが、大きな課題ではないかと思っています。

弓削副会長

今日は第一回目の審議会でしたが、大変的を得た話し合いになったのではないかと思います。先ほど鈴木委員からお話があった、ここで何をやっていくかということや、それから施策の柱のいくつかの成果指標についてですが、そこでの指標は、参加している人数を図るという形になっているものですから、実は昨年度、これについては非常に意見を言いました。本当にみなさんのおっしゃる通りで、講座やイベントに参加することだけが尺度となりえるのか、最終的に市民活動につながっていく自分たちというあたりで、自分から発したものが、自己実現であり他者実現につながっていくことをどう図りうるのか、それはこれからの大事な研究テーマだと思います。私が昨年意見を言っていた段階では、世の中にはその尺度がなかなかなさそうでしたが、ないのでしたら、静岡からみなさんの議論の中で生み出していけるのかもしれませんが。人づくり、まちづくりというのであれば、それに向けて何らかの指標が必要ですので、深まっていったとか、つながりが広がったとか、何か新しいものがこの審議会を通じて見えてきたら嬉しいなという思いを持ちました。

猿田会長

今日のご審議ありがとうございました。あいにく、回数や時間が限られておりますので、お伝えいただけなかったこともあるかと思います。できましたら、お気づきになったことは事務局あて積極的にお伝えいただければと思います。

本日はお時間の限られる中、精力的なご審議をありがとうございました。

署名 静岡市生涯学習推進審議会委員